

第7回「沼津駅付近鉄道高架事業に関するP I委員会」議事録

平成25年1月27日(日) 13:00～15:00

静岡県東部総合庁舎 別棟2F 会議室

【司会】

それでは、定刻になりましたので、只今より第7回沼津駅付近鉄道高架事業に関するP I委員会を開会いたします。私は、本日司会を務めます静岡県交通基盤部管理局政策監の井ノ口でございます。どうぞよろしくお願ひ致します。まず、議事に入ります前にお手元の資料の確認をお願い致します。

本日の資料と致しまして、まず次第でございます。それから委員名簿、座席表、資料1と致しまして「沼津高架P Iプロジェクトの流れ」、資料2と致しまして、「P I活動状況報告」、資料3と致しまして「地域づくりの目標について」、それから右肩に番号がふってございませんが資料4と致しまして、「皆様からの意見のまとめ更新版」などがございます。同じく資料5と致しまして「地域づくりの目標に関する定義」、それから番号がふってございませんが、資料6と致しまして「沼津高架P Iプロジェクトニュース5号」でございます。それから資料7と致しまして「勉強会について」、それから資料8と致しまして「今後の進め方」、ここから参考資料になりますが、右肩に番号ふってございませんが、まず、参考資料1と致しまして、「第6回のP I委員会議事録」です。それから参考資料2と致しまして、「第6回P I委員会傍聴者アンケート及びインターネット中継結果」でございます。それから、参考資料3と致しまして「沼津高架P Iプロジェクトニュース第4号」でございます。それから参考資料4と致しまして、「P Iプロジェクト・P I実施計画」です。それから参考資料5と致しまして、今年の1月5日付の静岡新聞の記事でございます。以上でございますが、不足している物がございましたら、事務局までお知らせください。よろしいでしょうか。

また、本日の傍聴でございますが、希望された方全員の傍聴となっております。また、本日の委員会の様子につきまして、これまでと同様、インターネットにて中継しておりますので、ご承知おきください。

それでは、開会に当たりまして、静岡県交通基盤部長の長島よりご挨拶申し上げます。

【交通基盤部長】

只今、ご紹介いただきました交通基盤部長の長島でございます。本日は、委員の皆様におかれましては、ご多忙にも関わらずお越しいたいただきまして、誠にありがとうございます。

傍聴の皆様方におかれましても寒い中、また日曜日にも関わらずご参加いただきましてありがとうございます。

さて、本日のP I委員会は第7回目の開催となります。本委員会での監視、助言、評価をいただいております「沼津高架P Iプロジェクト」におきましては、昨年4月からステ

ップ2「目標の設定」に着手しまして、本格的に市民の皆さまとコミュニケーション活動を実施してまいりましたが、これまでの本委員会でご報告しております通り勉強会の立ち上げなど、私共の努力不足もございまして計画通りに進められずにおりました。

しかし、オープンハウスや勉強会のメンバー選出をお願いしている団体の皆様との車座談議を進めて参りましたところで関係の皆様方のご努力、ご協力によりまして、1月12日に駅周辺地区におきまして勉強会を開催することができました。原地区におきましても近々に開催すべく目下調整を進めているところであり、引き続き全力をあげて取り組んでまいります。

本日はこれら私共が実施してまいりましたP I活動の状況につきましてご報告いたしますので委員の皆様におかれましてはこれまで通り忌憚のないご意見をいただきますよう、お願い申し上げます。どうぞよろしく願いいたします。

【司会】

それでは、委員長より一言ご挨拶をいただきますと共に、議事進行をお願い致します。

【委員長】

委員長を仰せつかっております石田でございます。お寒い中お集まりいただきまして、ありがとうございます。今回で第7回でございますけれども、今日は委員全員揃っております。

長島部長のあいさつの中にもありましたように、車座談議などを精力的に重ねていただいて、ようやくP Iのギアがかみ合ってきたかな、車輪が転がりだしてきたかな、という感触もございます。けれどもこれも挨拶の中にありましたけれども、当初予定しておりましたスケジュールより相当遅れているのも事実でございますので、今日はそのあたりを事務局からご報告いただいて、これを加速していくためにはどうすればいいのか、あるいはその時の優位点というのはなんだろうかということについて、せっかくフルメンバーが集まったわけですから、また是非いい意見、厳しい意見をいただければと思いますので是非よろしく願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

それでは、早速議事の方に移らせていただきます。まず、1番の第7回の委員会の流れについて事務局からご説明をお願い致します。

1) 第6回委員会の目的と流れ

【事務局】

街路整備課課長代理の森見と申します。よろしく願い致します。それでは、座って説明させていただきます。

それでは、本日の委員会の目的、及びP Iプロジェクトの流れについてご説明させてい

たきます。

「資料1」の「沼津高架P Iプロジェクトの流れ」をご覧ください。本日は、第7回目の委員会にあたります。

県では、昨年4月からP I実施計画に基づき、委員の皆様のご助言、ご評価をいただきながら、市民や関係者の皆さんとのコミュニケーション活動を進めてきているところでございます。

本日の委員会開催につきましては、1月16日(水)に記者提供を行い、傍聴者の募集を1月23日(水)の午前10時まで行いました。実際の報道状況と致しましては、1月18日付の新聞1紙に取り上げていただいたところであります。

さて、委員の皆様には、既にご報告しているところでありますが、私どもが、本委員会ごとに早期に立ち上げたいと申ししておりました勉強会の第1回を、先日1月12日に、沼津駅周辺地区においてようやく開催することができました。本日は、この勉強会の実施状況をはじめ、前回委員会以降、この勉強会開催までに私どもが実施してまいりましたP I活動の状況、私どもがステップ2目標設定に向けた議論を実際にどのように進めているのかといった内容、及び、今後の進め方について報告させていただきますので、委員の皆様におかれましては、これまで同様、ご助言、ご評価をいただきたいと考えております。

前回の第6回の委員会を昨年9月9日に開催して以来、少し間が空いてしまいました。

お手元には、「参考資料1」として前回委員会の議事録、「参考資料2」として、前回委員会の傍聴者の皆さんへのアンケート結果及びインターネット中継結果を添付しておりますので、併せてご覧いただければと思います。

私からの説明は以上でございます。

【委員長】

はい。いかがでしょうか？何かご意見ありますでしょうか？特にないはと思いますので、つづいてP Iの活動状況報告についてお願いします。

2) P I活動状況報告

【事務局】

それでは、引き続き、P Iの活動状況報告についてご説明させていただきます。

スライドの1枚目なのですが、前回のP I委員会以降私どもが実施致しましたP Iの活動状況についてご説明させていただきます。前回委員会から間が空いてしまっておりますので、まず私どもが進めてまいりましたステップ2の流れについて改めてご説明させていただきます。

ステップ2の開始当初でございますが、私どもといたしましては、勉強会をメインに深い議論を進め、ステップ2をとりまとめる計画でおりました。

しかしながら、これまでの委員会でもご報告しておりますとおり、勉強会の進め方に対

する不安やそもそものP Iについての周知不足などから、関心のある関係団体の方から推薦していただくとしていた参加者が集まらず議論が進んでおりませんでした。

そのため、ごらんのような広報紙による問いかけや車座談議を通じて議論を進めることで、私どもが実施しようとしているP Iについての理解を深め、勉強会の立ち上げを目指すとともに、ステップ2の成果でございます目標の設定をすべく進めてきたところでございます。これらの取り組みに加え、オープンハウスや事業者ヒアリングなども実施しております。それでは、前回委員会以降の取組み状況につきまして、沼津土木の勝又からご報告致します。

【事務局】

こんにちは。沼津土木事務所の勝又と申します。今日は、日曜日のお忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。傍聴の方々などいつもお世話になっております。ありがとうございます。

それでは、P I活動についてご報告いたします。座って説明させていただきます。お手元には「資料2」として、前の画面と同じパワーポイントの打ち出しを配布してございます。

9月9日の第6回P I委員会以降の取組みについてであります。

説明がありましたように、勉強会の立ち上げができない状況にあったため、車座談議を中心に活動を進めてきました。車座談議を通じながら、各団体の代表者や勉強会候補者の方ともお話を続け、P Iへの御理解、勉強会参加のお願いを続け、1月12日に沼津駅周辺地区の第1回勉強会を立ち上げ、開催することができました。なお、10月28日に沼津市長選挙がありましたことから選挙への影響を配慮し、その前後期間は、事業者ヒアリングのみを中心に組み立てまいりました。

また、意見取りまとめ冊子の発行、ニューズレター4号、5号の発行を行い、オープンハウスを通じ、広く市民からのご意見を聞いてまいりました。

それでは、個別にご説明いたします。まずは、車座談議でございます。

前回のP I委員会以降、本日までに10回実施し、10団体延べ107人に出席いただきました。実施した団体は、鉄道高架事業に関心の高い団体、また昨年度行ったステークホルダーグループ等であります。

9月、10月は、先方からの開催要望に応じて行ったものが多く、11月以降は、主に勉強会参加への依頼のため、こちらから開催を呼びかけて実施してきたものがあります。なお、一部の車座談議では、議論の仲介役・中立的な立場として、また、勉強会の雰囲気を知っていただくため、ファシリテーターの方に進行役をお願いしました。

車座談議の主な内容ですが、概ね約2時間のタイムスケジュールの中で、事務局から30分程度、沼津駅周辺総合整備事業や鉄道高架事業、P Iプロジェクトの取組みについて説明を行い、その後、意見交換を実施しております。

なお、車座談議における記録の正確性、信頼性の向上のため、録音や録画での記録、マスコミ取材の可否などを確認する「車座談議 事前確認事項」を先方の窓口の方と事前に調整を行ないまして、P Iの透明性・公正性を確保するようにいたしました。

それでは、車座談議について、いくつか紹介させていただきます。

これは9月21日に実施した「NPO法人海風47」様との車座談議で、ファシリテーターにも協力していただいております。このNPO法人の代表理事の方が、これより前、9月6日に行った「チェンジ沼津」様との車座談議に参加しており、「この時の車座談議が良かった」ということから、開催を要望されたものでございます。47という数字は、戸田村との合併前の沼津市の海岸線の延長が約47kmという意味で、まちづくり全般に関心のあるNPO法人様であります。

こちらは9月27日に実施した「東駿河湾まちづくり研究会」様との様子です。高架事業に対して推進する立場の方々と、8月2日に車座談議を行い、2回目の運びとなりました。初回と同じくファシリテーターに協力をさせていただきました。2回目ということで議論する時間も多く取れ、また、我々運営事務局との信頼関係も高まりました。代表の方とはその後の勉強会メンバーの選出でも調整していただき、改めて車座談議を地道に続けることへの重要性を認識したところであります。

こちらは10月9日に実施した「カフェ檸檬」様との様子です。喫茶店「カフェ檸檬」の店主さまから開催要望があり、事務局で昼前の時間帯にお邪魔し、コンパクトに対応しました。「カフェ檸檬」の常連でまちづくりに関心のある方々であり、また女性の方が半数を占めていたことから、「駅舎をはじめ街全体のデザインを考慮すべき」などのご意見を頂き、落ち着いた雰囲気の中での実施となりました。

こちらは、カフェ檸檬と同日の午後に実施しました、「沼津駅の高架を推進する有志の会」様との車座談議です。開催要望を受け、ファシリテーターに協力を頂き実施いたしました。元沼津市議会議員・元沼津市職員で、過去、高架事業を推進してきた立場の方々であるため、鉄道高架事業推進についての想いも強く、熱心な議論のご意見を頂きました。

11月28日に実施した「沼津駅周辺の事業者の方々」との車座談議です。10月末の市長選後、事務局では駅周辺の勉強会を立ち上げるため、沼津商工会議所、商店街連盟の方と調整してまいりました。この中で、勉強会へ推薦のあった方々に個別に説明してまいりましたが、勉強会の雰囲気を知っていただくため、皆さんに集まっていただき、車座談議を開催したものです。写真のようにファシリテーターの明るい公正な進行により自由な議論が行われ、その後、勉強会出席についてのご理解をいただくことができました。

次に、原地区における車座談議の状況です。原地区においても勉強会立ち上げのため、関係者の方と調整してまいりました。

こちらは、「沼津市商工会原支所」の方々と車座談議です。6月26日に一度、事務局で、開通したばかりの新東名高速道路の話題、原・浮島地区における事業をテーマとした車座談議を行ないましたが、今回はファシリテーターの協力をいただき、原地区における

ご意見をお聞きしました。商工会の定例会議の後の時間を使っての開催のため、取れる時間は短くなりましたが、原地区における身近な課題をたくさん出していただきました。

原地区における車座談議で使用した図面です。この原・浮島地区のまちづくりの図面は、平成19年5月の商工会だよりに掲載され公開されたもので、計画も当時のものですが、原地区全体を考えていく上でわかりやすく、また知らない方も多く、改めて見つめなおすには、わかりやすい図面ではないかと思い一部県で修正し、使用しました。こちらの図面のパネルが後ろに置いてあります。

最後の紹介となりますが、12月15日土曜日の夜、原地区にお住まいの方々、主に、原貨物駅に土地を売らない地権者の会、及び、郷土を愛する会の方々と実施した車座談議です。事務局としては、原地区の方々とコミュニケーションを深めるため、開催の願いを継続してまいりました。

今回、窓口になっていただいた方には、多くの参加者への連絡や、また、次の日が衆議院選挙にあたってしまい、当初予定した公会堂が選挙準備のため使用できなくなり、会場を変更するなどの調整もしていただき、本当に助かりました。この車座談議では、昨年度、知事に提出された貨物駅移転用地の代替活用案を示した「健康文化タウン構想」について説明していただき、その後、ファシリテーターによる協力のもと、意見交換を行いました。

こちらは当日の車座談議で説明のあった「健康文化タウン構想」関係の資料です。この資料も後ろに置いてあります。コピーも用意してございますので、必要な方は、事務局までお申し出ください。

次に広報紙でございます。幅広いコミュニケーションツールとして、新聞折込みにより市内全域に8万部の配布、及び地区センター等の公共施設22か所への配架、オープンハウスでの配布等を行い、PIプロジェクトの進捗状況等の積極的な情報提供に努めてまいりました。前回委員会で報告しました8月22日発行の第3号では、ステップ2の目標の設定に向け、沼津駅周辺及び原地区の各地域について、心配なことや地域づくりについて取り組むべきことなどを市民の皆さんにお聴きしました。

11月28日に発行した第4号は、第3号で問いかけた内容について、4月から9月までに実施したオープンハウスや車座談議等でのご意見とあわせ、「関心事」に注目して整理した意見趣旨として示し、更なるご意見の有無について問いかけをいたしました。

第5号は平成25年1月12日に発行し、第4号でお知らせした意見趣旨に12月までに実施した車座談議の内容を加え、さらに厚くしたご意見を地域づくりの目標に関して再整理し、さらに具体化・詳細化するために問いかけを行いました。

こちらの内容につきましては、次第3の「地域づくりの目標について」において詳しく説明いたします。

それから情報提供手段といたしまして、沼津市が管理する沼津駅南の地下道ショーケースに、広報誌などを掲出し、PI情報を広く市民の皆さんにお知らせしております。25箇所あるショーケースのうち、バスターミナルや駅南口へ通じる階段付近で、比較的人通

りが多い場所にあるショーケースを借用し、広報紙や意見まとめ冊子の掲示、オープンハウスの告知と開催情報、P I 委員会の開催報告などを掲出しております。

これまで月2回程度のペースで更新し、最新のP I 情報の発信に努めております。今後一人でも多くの皆さんにP I をご理解いただけるよう、さらなる情報発信を続けていきたいと考えております。

次に、オープンハウスでございます。

前回のP I 委員会以降、沼津駅周辺にて2回、原地区にて1回、合計5日間オープンハウスを実施しております。

10月4日、5日には沼津駅南口の商業施設イーラ deにて、12月4日は、原地区のスーパーマーケット、マックスバリュエクスプレス沼津原町西店にて実施しました。また、先日の1月21日、22日には、沼津駅の北側に位置する大型ショッピングセンターのイシバシプラザにて実施しております。意見まとめ冊子や広報誌の発行に合わせて日程を調整しております。会場利用の都合上平日のみの開催となっておりますが、開店から閉店までできる限りの時間帯で実施しております。

こちらはオープンハウスを実施した参加者の会場の位置図でございます。ごらんのように駅の南北、及び原地区にて実施しております。

各会場でのオープンハウスの目的でございます。P I の周知や不足意見の補てんを中心に行ってまいりました。各回ともパワーポイントにしてありますとおりの内容でいろいろなご意見を聞くような形で実施してまいりました。各回のオープンハウスにて提出しました代表的なパネルのご説明いたします。こちらは「P I 実施計画について」です。本日後ろの方にも掲載してございます。

10月4日のイーラ deにおけるものです。同日発行しました意見まとめ、ステップ2中間報告冊子等代表的なパネルでございます。不足していた広域レベルの意見についてパネルにし、さらなるご意見を伺いました。

12月原地区で実施したオープンハウスでのパネルです。屋外の仮設テントでのオープンハウスだったため、P I プロジェクトに関するパネルについてはA3版にて用意し、原地区の計画についての航空写真のみパネルとして掲出致しました。

こちらは先週のオープンハウスにて掲出した代表的なパネルでございます。意見まとめ冊子の更新についてお知らせするパネルと勉強会での検討内容でもある地域づくりの目標について説明するパネルです。更新した意見まとめ冊子と地域づくりの目標の定義についての資料の配布も行いました。

同じくこのパネルですが、行ったばかりの1月12日の沼津駅周辺地区の勉強会についての説明パネルです。開催概要、意見概要について示したものでございます。

各回のオープンハウスの実施結果をご報告いたします。

こちらは10月に実施したイーラ deでのオープンハウス実施状況でございます。

聴き取り調査人数は2日間で74人、内訳は、男性が37人、女性も37人でございま

す。年齢層でございますが、聴き取ることができなかつた方もいらっしゃつたので、一部職員の主観によるものも含まれますが、50歳代から70歳代の方が多くみられました。

不足していた広域レベルの意見聴取を期待しましたが、沼津駅周辺の心配なことや取り組むべきことについての意見が多い結果となりました。

また、西武撤退を受け、まちの賑わいや、買物をする場所がなくなってしまうことを心配する意見や、沼津駅周辺に魅力的な店舗をのぞむ女性の意見をお聴きすることができました。

12月4日に実施したマックスバリュエクスプレス沼津原町店でのオープンハウス実施状況です。昨年度は、この場所にコンテナハウスを設置し、オープンハウスを行いました。簡単に屋内で実施できるよう写真のようなテントを県で購入し実施しました。

聴き取り調査人数は18名、内訳は、男性が18人でございます。残念ながら、女性の来場はございませんでした。写真のようにお買いものお母さん方が店内から窓越しにこちらを見ていただいていたのですが、残念ながらお越しいただけませんでした。先ほどご説明した12月15日の原地区での車座談議にご出席予定の方も寄っていただきまして、「今度15日行くからね」という言葉もいただきました。意見の概要としまして、治水対策や地震による津波や液状化を心配する声、新貨物駅の土地に雇用機会を促す農園、健康をテーマとした健康文化タウン構想、みんなが使用できる施設を整備すべきだ、というような意見を聞くことができました。

最後に先週実施したイシバシプラザのオープンハウス実施状況でございます。

聴き取り調査人数は114人、内訳は、男性が61人、女性が53人で、様々な年代の方が足を止めてくれました。

PIプロジェクトについての認知度について重点的に聞きまして、約47%の方が知っているとの結果がでました。

意見としまして面白かったのが、沼津市民の皆さんからは、沼津に魅力を感じないという意見をお聴きした一方で、東京からたまたま買い物に来ていた方からは、「地元の人は沼津の魅力に気がつかないかもしれないが、沼津ほど良い所はない。沼津の情報を、東京等に向けて発信すべきではないか」といったご意見もありました。今後参考になるご意見ではないかと思えます。

次に、事業者ヒアリングについてご報告いたします。

事業者ヒアリングについて、これまでの委員会では、鉄道事業者のJR東海、JR貨物、通運事業者、港湾事業者から伺った意見を報告させていただきました。前回の委員会以降、バス事業者2社、大型店舗2社、タクシー事業者1団体、トラック事業者1団体の6者に対しヒアリングを実施しております。

ヒアリング内容でございますが、バス、タクシー、トラック事業者に対しては主に「鉄道高架事業、PIプロジェクトに対する考え方・沼津市内で事業展開する上での課題とその解決に向けて望むこと」、商業者に対して主に、「高架事業、PIプロジェクトに対する

考え方、及び、沼津駅周辺に必要な機能、施設について」などについて、それぞれ1時間程度ヒアリングを行いました。

なおこれまで行った事業者ヒアリング概要についても、ホームページ、意見とりまとめ冊子に掲載し、公表しております。

次に事業者の種別毎のヒアリングの要旨をご報告いたします。

バス事業者へのヒアリング結果です。

バス事業の現状について

- ・路線バスの他、観光バスや貸切バスも三つ目ガードやあまねガードを走行するので渋滞で通過に時間を要し、定時性が確保できず苦勞している。

他の事業者からは、

- ・観光バスや貸切バスは設計や高さ制限の不安から三つ目ガードは通らないようにしている。
- ・バス利用者は年々減少傾向にある。朝夕は通勤・通学である程度利用されるが、日中の利用が少ない。日中に駅や駅周辺の施設に人が集まらなるとバス利用者が増えない。

バス事業の営業上の課題とその解決に向けて望むことは、

- ・特にガード付近に渋滞対象を元に、渋滞があると定時性が確保できない、定時性が確保できないとお客様にご迷惑をかけてしまう。
- ・駅前のバス乗り場にバスが定時に到着するためには、駅周辺にバスの時間調整のための滞留スペースが必要である。しかし、十分に確保されていないため、苦勞している。駅周辺の整備には考慮してもらいたい。

鉄道高架事業に対する期待や懸念につきましては、

- ・駅周辺の交通事情が改善され、渋滞が減り、バスの定時性が確保できるのは歓迎すべきこと。
- ・高架化により定時性が確保できれば、新たな路線展開や増便、ルート変更などがあり得る。
- ・沼津駅の北側を走る路線も駅南口から発着しているが、駅の南北間を人が歩ける様になれば、駅北口から発着する路線が増やせ、時間短縮にもなると思う。

といった、ご意見をいただいております。

大型店舗事業者へのヒアリング結果でございます。

商圈や来客者の交通手段等については、

- ・車での来客者は、平日よりも休日の方が多い。

今の沼津駅周辺の地域での課題や心配なことについては、

- ・沼津は観光業を大切にしなければならないと思う。観光客が1日中楽しめるまちづくりをすべき。
- ・観光もウォーキングや食などと絡める等の工夫をし、マンネリ化させてはいけない。
- ・メディアからの発信も大切。沼津もメディアを使った広報をもっとすべき。

沼津駅周辺に必要な機能・施設、については

- ・新東名のネオパーサ駿河湾沼津は全国的にも有名なので、そこへのスマートインター設置や、そこから沼津市街までの道を整備すべき。
- ・沼津駅北口側には、店が歩ない。駅北をもっと活性化させるような施設があるといい。
- ・駅周辺に、観光や医療などの施設があるといい。

沼津駅付近鉄道高架事業に対する期待や懸念については、

- ・鉄道高架後のまちの変化について、想像が難しい。高架事業の効果を知りたいので、他都市の先進事例をもっと紹介すべき。
- ・現状は、歩行者が沼津駅の南北を行き来しにくい。それが行き来しやすくなれば、まちは変わっていくと思う。
- ・ガードが狭くて薄暗くて怖いので夜通りたくない。

といったご意見をいただいております。

タクシー事業者へのヒアリング結果でございますが、

タクシー事業を営業するうえでの課題と、その解決に向けて望むこと、については、

- ・三ツ目ガードやあまねガードは渋滞しており、冠水の心配もある。
- ・東海道線の日吉踏切・御殿場線の高田踏切付近も朝晩は渋滞している。
- ・タクシーは基本的に最短ルートを走行するため渋滞にはまりやすいし、渋滞にはまると料金も上がるので、結局お客様にご迷惑を掛けてしまう。

沼津高架事業などに対する期待や懸念、については、

- ・渋滞解消に加え、津波対策や目吉・高田の踏切付近の安全性、市街地の南北分断解消のためにも高架は必要である。
- ・ある程度予算を掛けて社会基盤を整備しないと地域が活性化しない。仮に高架が中止になった場合は、これまでの投資が無駄になってしまう。
- ・東部コンベンションセンターのオープンに伴い変化するタクシー需要に対応していきたい。
- ・完成後は、アフターコンベンションで東部・伊豆地域への波及効果が見込まれるし、交流人口が増えれば、まちや地域が活性化していくと思う。

といった、ご意見をいただいております。

次に、トラック事業者へのヒアリング結果でございますが、

トラック事業を展開するうえでの課題とその解決に向けて望むこと、については、

- ・三ツ目ガードやあまねガードは慢性的に渋滞している。特に朝晩の通勤時間帯は、渋滞がひどい。
- ・大型車両は通行できるルートが決まっているので、渋滞にはまる時もある。渋滞解消のため、高架化には期待している。

沼津高架事業などに対する期待や懸念については、

- ・駅周辺が高架化され、南北を繋ぐ道路が整備されれば、駅南から東名、新東名、スマ

ートICへのアクセスが飛躍的に向上することになるので期待している。

- ・高速道路・幹線道路を繋ぐ道路網や新ルートが整備され、輸送時間が短縮すればコストダウンに繋がるため、期待している。
- ・近年、海外シフトなどで沼津から企業が出て行ってしまい、顧客が減っている。
- ・新貨物駅ができて貨物の取扱量が増えれば、トラック輸送の仕事も増える可能性がある」と期待している。

といった、ご意見をいただいております。

次に勉強会であります。

沼津駅周辺地区の第1回勉強会を、去る1月12日土曜日の午後、県東部総合庁舎、にて開催いたしました。各団体から23名の出席があり、約3時間の勉強会を、途中休憩を挟み「勉強会の進め方」「地域づくりの目標について」議論いたしました。詳細は後ほどご説明いたします。

グループ討議の様子ですが3つのグループに分かれ議論を行いました。皆さん紳士的に会話を行い、円滑な運営にご協力していただきました。まずは、無事開催できたことに、事務局として、関係者の方への感謝の気持ちでいっぱいであります。

最後に、これまでの取り組みを総括してご報告いたします。

ステップ2におけるこれまでのPI活動実績の総括でございます。勉強会については、報告しましたとおり、駅周辺地区で行いましたが、2月、3月にそれぞれ第2回、第3回を予定してございます。また、原地区についても、2月上旬に開催するよう、現在準備を進めております。

その他、オープンハウス、広報誌の発行、車座談議、事業者ヒアリングの実施の他、その他としましてメールなどで38件のご意見をいただいております。長くなりましたが、私からは以上でございます。

【委員長】

はい。ありがとうございます。ご質問とかご意見がございましたらどうぞ。

【松浦委員】

勉強会のことなのですが、これは後でまた説明があるみたいなので、後で話した方がいいですか？

【委員長】

今でもいいですよ。どうぞ。

【松浦委員】

完全に進め方の思いつきの部分なのですが、集まって会場で話すだけではなくて、

実際に現場に行ってみんなで一緒に見るという方法をとることが、こういうような状況では有効かと思います。別の陣営の人たちが一緒に集まったときには、会議室で話すだけでなく、実際に現地を一緒に回ることが有効なのではないかと思います。

あと、座らせ方をどうしたのかということです。結局、座りたいところに座ったのか、それとも意図的にいろいろな人がミックスするように座らせたのか？というところをお聞きしたいです。

【委員長】

はい。それに関連するのですけれども、この勉強会自体も公開でやられているのですよね？

【事務局】

はい、公開でやっています。

【委員長】

傍聴者の方はどこにおられるのか？写真では見えないのですが。

【事務局】

資料の議題の4の勉強会の所でまたパワーポイントを使ってご説明いたします。

【委員長】

そうですか。そちらの方がいいかな。

【事務局】

そちらを受けてからのほうがわかりやすいかなと思います。

【委員長】

後程お答えいただくとして、お願いします。他にどうでしょうか？どうぞ。

【城山委員】

ご丁寧に説明していただいたと思うのですけれども、この段階だと何人から聞いたかということももちろん大事でしょうが、どんなタイプの意見が、幅がどのくらい出たのかという、その幅がつぶせたかというのも大事だと思うのですけれども、その時に、若干途中のご説明でもありましたけれども、最初の段階でやった車座談議とオープンハウスでちょっと違ったタイプの人の話が聞けたのかどうか。オープンハウスの時は、数は少ないですけども若い人も参加されたというのもあったので、それはそれで新しいことかもしれない

いですし、あるいは若い人が、固有名詞である必要はないと思いますが、若い人が出てきたのでこういう意見があったというような、そういうようなところがあれば言っていたければいいなと思います。

それと関連して確認なのですが、あとでご説明があるのかもしれませんが、資料の5という、これは整理したもので分厚いものはもっと別にあるのだと思いますが、ここにはいろんな形でステップ2までの意見が入っているのではないかなと思うのですが、例えばコード番号を見れば分かるかもしれませんが、例えばこれはオープンハウスで出た話で、これは車座談議の時とかですね、ある程度どういう手法で出てきたのかわかれば教えていただきたいというのが一つです。

それからもう一つは、むしろこれは後の話になるのかもしれませんが、例えば資料5のいろいろな整理の所で特に1の広域レベルの話というところで、例えば資料5でいくと4ページから5ページあたりまで、時間の話がありますが、一方では、早く結論を出すものと、もう一つは必ずしもすぐ結論を出すということではなくて、やるとすると何十年かかるもの、例えば30年かかるとすると間をきちっと考えるべきという、そういう選択肢だけではなくて、選択肢にいく移行期をどうするかをきちっと考えられるのかというところが結構大事な観点かなと思うのですけれど、こういう意見はどのようにして出てきたのかをもしわかれれば教えていただきたいなと思います。

【委員長】

はい、お願いいたします。幅がつぶせたというのは、来ていただいた方の幅と、結果としての意見の幅の両方ありますよね？

【城山委員】

はい、そういうことです。

【事務局】

まず、ご質問の中で若い人の意見が聞けたかということですが、今回報告しました10月から12月のオープンハウスは、やはり年配者の方が多くいらっしゃいました。

以前、4月から9月までやったオープンハウスでは、特に5月のB i v iというところでやったオープンハウスでは、ちょうど連休の間で高校生が通るような商業施設でやりましたので、比較的若い意見はそういうところで聞けました。なかなか長い時間を若い人はとってくれないものですから、模型を置いて話を聞きましたが、特に駅の周辺で困っているようなことはありませんか？ですとか、このまちに期待することはない？ですとか、そういうざっくばらんな話でないか帰ってしまいますので、そういう話をさせていただいてますと、魅力あるお店がないですとか、事業という話ではなく、買い物についての意見が多かったです。我々は高架事業ということですから、やはりこのあたりで不便なところ困

ったことはない？とか怖いところはない？とか聞きますと、やはり三つ目ガードとか、あまねガードとか、ガードを通らないと反対側にいけないということもございますのでやはり夜暗くて怖いなあとか、自転車が通って輻輳していますので、やはりガードが怖いという意見はどの年代でも多い意見でした。

それと、全般的に若いと言っても30代くらいなのですが、どのオープンハウスでも30代の方は子供づれでいらっしゃるので子供がご興味ある話をするのですけれども、面白い意見で、「自分が子供の頃からこの問題は話をしているよね」と開口一番言われる方が多いものですから、やはり時間的に長い事業だと、そういう問題だということは我々としても認識しています。

【委員長】

すみませんが、質問は、来てくださった方のいろいろな属性で幅が潰せたか、大体網羅しているかということと、これまでいろんな議論で何の意見をどういう風にしてするか、どの程度実感としてカバーできたのかということをお答えください。

【事務局】

幅としまして、印象的なものですがやはり数的な問題もあるのですけれども20代以下の数が少ないと意識で我々はとらえています。不足している問題については、我々も質問等をしていく部分もあるのですが、なかなかそのような答えは返ってこなくて、私が今話したような回答になってしまうところが実の所あります。

【委員長】

長い目で見た意見とか広域の意見が少ないってということもあったので、先ほどご説明いただいたように広域から見た意見をいただけるような工夫をパネルでしたということですよ？

【事務局】

そうです。先ほど細かく説明しなくて申し訳なかったのですが、10月のオープンハウスでは、広域のテーマが少ないだろうという中でその部分のパネルを出してそれについて説明。原地区の12月では、原地区の関係が少ないのでそういうことを質問しておりました。

【委員長】

それと、意見を伺った番号がわかるか、このコードがという質問ですが。

【事務局】

コードにつきましては、インターネットで細かく追えるようにしていきまして、このコード番号がどの車座、どのオープンハウス、というような意見が追えるような形にしています。

【城山委員】

例えば、100番台、300番台とありますが、例えば100番台がオープンハウスとわかるのでしょうか？

【事務局】

そこまでは整理されていません。

【委員長】

他いかがでしょうか？私からもう一つ質問があるのですけれども、ご説明の中で複数回車座談議を実施していただいた団体があると伺いまして、何団体くらいでしょうか？というのが最初の質問で、2番目の質問が2回やっているから、じゃあ3回目もやろうよね、とかそういう雰囲気になっているのかどうかとかですとか、あるいは、そういう複数回これからやろうというようなことを雰囲気が感じ取れるかどうか？ということが2番目の質問で、3番目は、これはちょっと答えにくいかわかりませんが、1回目と2回目で議論の質が変わったのか。そういうところで印象がありましたら教えてください。

【事務局】

即答になってしまいますけど私の記憶の中では、車座談議を複数回行ったところは、2団体ほど、当初実施した5月頃の車座談議というのは、どちらかというと勉強会への出席の打合せも車座談議とカウントしておりますので、それを抜きにして本当にみんなで集まって開催した車座談議に絞っての回数、複数回の所は2団体ございます。

【委員長】

もう1回やろうね、っていう雰囲気はありましたか？

【事務局】

2回やっていますと、問いかけは同じようなものを2回やっていますので、2回目の頃になりますとネタが尽きてくるところはあります、同じ人が多いですから。そうなるともう3回目はいいかなといった話は聞くのですが、今回はステップが進むにつれて議題の内容が変わるということは皆さんご承知いただいているようで、次のステップの時には皆さんまたお願いします、やりましょうというような雰囲気にはなっていました。

【委員長】

3つ目の質問は。

【事務局】

内容につきましては、それほど大きく差はないのですが、特にP Iに対する考え方は非常にわかってきてくれていると、ただ、やはり時間がかかるのは良くないというご意見も出ますので、最後の方の車座談議では、もう意見は出尽くしたねとか、そういうような意見もいただいたりしました。やはり次へ次へというような印象の人が多かったです。

【委員長】

ファシリテーションをやっていただいた井上さんもいらっしゃいますが、何か感想ございましたら、お願いできますか？

【ファシリテーター】

車座は、車座のグループの性格によって大分違うのですが、原則的には同じグループに属する人たちなので、比較的もともといろいろな話が統一的なとか、共通的な意見が多かったように思いますね。異なった意見をぶつけあうということは少なかったように思います。

【委員長】

ありがとうございます。いかがでしょうか？どうぞ。

【目加田委員】

今の意見に関連してなんですけれども地域づくりの目標に関する定義というところのご意見とか、それから皆さんのご意見を拝見してみますと、やはり非常に切実な思いが伝わってきている一方で、やはりどこが抽象的な印象論が多いのかなと、それは当然、場によって変わってくると思うのですね。オープンハウスと車座ではもちろん内容の質というのは変わってくると思うので。例えば地域づくりの目標に関する資料5の中で出てくる、「1. 広域的な中心」の中で、例えば沼津市が三島や富士市に遅れをとっている、東部の拠点として開発を進めてほしいというような意見をいただいたと思うのですが、何ををもって遅れているのと表現しているのか、例えば人口なのか、雇用の数なのか・・・ちょっとわからないのですが、じゃあ例えば遅れていないものはなんなのか、具体的な議論を詰めていく機会があったのかどうなのか？それは、勉強会の趣旨なのかもしれないのですが、発展的な意見を突き詰めていった時に突っ込んだ議論を車座の中で行ったのかどうか？を教えてください。

【事務局】

はい。広域テーマの中で、今おっしゃった通り、沼津の周りの三島や富士方が進んでいるというご意見がかなり出てきております。もう東部の拠点が沼津ではなくなってしまったのではないかと、というご意見もあります。ただその中で、数としては、オープンハウスの中で出た意見がかなり多くございまして、我々がそれで何かつっこんだ話をしたかといわれますと、聞きっぱなしの状態が終わっている状況でございます。そういう議論につきましては、我々としましては、勉強会のテーマとしてやりたいなという思いもございまして、車座談議の方でも、本来そういうような意味で問いかけをして話をすればよかったのかもしれないのですけれども、やはり広域的な意見を拾うということが目的になってしまいましたので申し訳ないのですが、そこまでは。

【目加田委員】

今の点なのですが、広域的な意見を聞こうということと、参加してくださる方にもう少し学びというか情報を持って意見を深めていただくということは目的が違うのかもしれませんが、後者をどのように達成していくのか？それは、勉強会で主にやっっていこうと考えておられるのか？その辺については是非伺いたいと思います。

というのは、一般的な印象というのは、間違っている場合もありますよね。例えば、富士とか三島の方が発展しているのは、何を持って発展しているのかということによっても意見が変わってくると思いますし、もう一步踏み込んで印象論をさらに確実な情報によって軌道修正していくということが大事なのかなと思うのですが、それはどの場において実施されていくのか？そういう機会があるのかどうか？ということなのですけれども。

【事務局】

我々としてはやはり勉強会の場であると思っております。ただ車座談議が何回もできるような機会があればそのようなテーマを出していくべきだと思いますが、なかなか車座談議も開かれないということであれば、このテーマに関しては、勉強会の方で議論になると思います。また、データも出していかないと何を持って遅れているとか進んでいるのかわかりませんので、それは、別に次の勉強会でやるとかではなくて、何回か開いていくうちにデータを少しずつ整理しながらですね、みんなで共有していけばいいかなと、それをまた我々としてはオープンハウスなどで説明していく、そういう形になろうかと思います。

【委員長】

そうですね。勉強会ですべてやるとかっていうだけの話ではなくて、議論と誘導はきちんと注意しないといけません、もう少し掘り起こしてみると共通の所に行くのではないかと、そこが違ったから話にならなかったとかというそういう構造もいくつかあろうかと思うのですよね、それは、車座の中でも勉強会の中でも、レスポンスの短いフィードバ

ックとしてもあるでしょうし、いろいろな場でご意見をいただいて、それを、P I ニュースとかオープンハウスとか別の場でまた共有しあうっていう、大きなフィードバックもあるでしょうから、それも組み合わせてやっていくというのがP Iのプロセスとして重要なんじゃないかと思います。

【事務局】

そうですね。我々も限られた時間の中で数多いテーマがあると思いますので、いっぺんにそれを全部拾い上げるのは不可能ですので、やはりキャッチボールじゃないですけど、問いかけて返ってきたものを整理して出す、それをまたみんなで議論してまたこんな意見があったと整理して出すくらいかなと思っていますのでその辺はうまく運営をしていきたいと思っています。

【目加田委員】

すみません、同じことを申し上げてしまうかもしれませんが、P Iプロジェクトのニュースも意見を伺ったという、皆さんからご意見をいただきましたというところで終わってしまっているのですね。それらを、実際に調べてみました、実はこういうデータも出てきましたとかさっきおっしゃったように意見を誘導するようになってはいけませんが、ただ客観的なデータとしてこういうのがありましたとか、もっとインフォーマティブとか、必ずしも車座やオープンハウスに参加していない方でこういうニュースを見た方がもう少し勉強できるような情報が入っているといいのかなと思います。

【委員長】

ありがとうございます。他にいかがですか？よろしいですか。はい。

【寺部委員】

事業者ヒアリングについてなんですが、これまで主に交通系と運輸系の事業者に聞いていただいたのですがそれ以外に地元で工場を持っておられる企業の方などはどうでしょうか？

【事務局】

はい。実は原の方では、先ほど商工会の代表の方にもお話をしているのですが、原の方では事業者との関係の場もあるということを知っていますので、我々もすぐというわけではないのですが、やりながら今後はこういう意見もあるというのを、会社の方に伺ってヒアリングはしていきたいなどは今考えています。

【委員長】

もし今の報告に対してご質問等がなければ、次の議題に移ってまいりたいと思います。3番目の地域づくりの目標についてです。お願いします。

3) 地域づくりの目標について

【事務局】

それでは、3番目の地域づくりの目標について説明いたします。なお、4の勉強会につきましても、内容が重なる部分がございますので、続けて説明したいと思います。

それでは、最初に「地域づくりの目標について」、お手元には資料3として配布してございます。

さて、ステップ2において、地域づくりの目標の設定を行うため、広く市民や関係者の皆さんの意見を伺っているところでございます。

寄せられた意見につきましては、前回委員会でも説明しましたとおり、10月には、4月6日から9月9日までに寄せられた意見を「意見まとめ冊子」として公表いたしました。また、今月には、12月15日までに寄せられた意見を加えた更新版を作成いたしております。お手元には「資料4」として、この中間報告更新版の冊子を配布してございます。

これまでの取り組みの中でご覧のようにたくさんの意見が寄せられたものですから、これら意見を具体的に目標としてまとめあげていく段階に着手すべく、まずは、議論するための材料づくりを行いました。

これまで寄せられた意見には、「資料4」の意見まとめ冊子の通り、地域づくりの「方法」についての意見がかなり多く含まれております。例えば、事業の是非や内容に関する意見は、地域の将来像を実現するための意見と理解できますが、もし、実現しようとしている地域の将来像がそれぞれ違っていれば、その「方法」を議論しても意味がなくなってしまう。

そこで現在進めているステップ2では「方法」を考える前に、前提となります地域の将来像について市民の皆さんの考えをまとめようとしているものでございます。

このため、これまでに寄せられた意見を、「地域がどのような状態になることが求められているのか」という視点で読み解き、それを「地域づくりの目標」として整理いたしました。こちらが整理したものの一つ例でございます。字が小さくて読みにくいのですが、一番下でございます、黒い四角(■)が、意見まとめ冊子にございます黒い四角と同じものでございます。これを、「地域がどのような状態になることが求められているのか」という視点で読み解き、地域づくりの目標として整理したものが、こちらの「1-1」の部分でございます、この表になります。

ここでは、黒い四角(■)にございます意見を踏まえて、「誰もが支えあえる街に」と読み解き、黒ボツ(・)に、その詳細な内容として「地域コミュニティが充実し、子供から子育て世代から高齢者までの様々な世代が集まって暮らし、様々な場面で相互に支え

あいながら暮らせる」といったようにまとめました。このように整理したものを、読み解いた内容ごとに整理し、同じカテゴリー、例えばここでは「暮らし」として整理してまとめ、大目標として整理しております。

お手元の「資料5」をごらんください。こちらが、まとめたものでございます。

ごらんとおり、テーマごとに、まずは「地域を取り巻く状況」を整理し、ただいま説明いたしました「地域づくりの目標に関する整理」としてまとめてございます。

また、地域づくりの目標に関する意見とか、P Iの進め方に対する意見も多く寄せられておりますので、こちらにつきましても課題の整理をし、とりまとめてございます。

このように取りまとめた資料でございますが、この資料をもとに広報紙による問いかけ、オープンハウスでの問いかけを実施しており、勉強会の資料としても活用しているところでございます。今後は、この資料を材料として、目標設定に向けた議論を進め、ステップ2のとりまとめを目指したいと考えております。

引き続き、1月12日に沼津駅周辺地区で開催しました勉強会の実施状況につきまして沼津土木事務所の勝又から説明します。それから、本日は、勉強会の運営をはじめ、車座談議の運営につきまして支援をいただいている、ファシリテーターの井上さんにきていただいておりますので、勝又の説明のあと、第1回勉強会をはじめ、これまで実施してまいりました取り組み状況につきまして客観的、中立的な立場から感想を述べていただきたいと思いますが、委員長よろしいでしょうか？

【委員長】

はい。

【事務局】

ありがとうございます。それでは勝又よりご説明いたします。

4) 勉強会について

【事務局】

お手元の資料でございます、資料7におきまして説明させていただきます。

勉強会開催までの経過を簡単にまとめてございます。

平成24年4月のステップ2開始から、勉強会開催に向けて各団体に参加の依頼を始めました。勉強会への参加について、すぐに了承していただいた団体もある一方、P Iの周知不足に加え、推進反対の対立構造を助長してしまわないか心配といった意見や、勉強会のやり方がイメージできないなどの声もあり、勉強会への参加に否定的な団体も多くありました。

そこで、一般の方には広報紙、ホームページ、オープンハウスなどでP Iの取組みの周知を行い、一方、勉強会に参加していただきたい各団体の代表者や主な構成メンバー

の方に面会しまして、勉強会の進め方や雰囲気を知っていただくため、中立的な立場であるファシリテーターに進行をお願いするから車座談議よろしくお願ひしますというような、開催をお願いしてまいりました。

各団体の代表の方や内部で調整してくださった方のご尽力により、8月からファシリテーターが参加した車座談議を始めることができました。

ファシリテーターが進行する事により「進行が中立的で良かった」「公平に意見を聴いてくれた」「多くの意見が出されて良かった」など、推進する立場の団体でも反対する立場の団体でも、概ね好評でした。

また、「違う立場の方の意見を聴いてみたい」「勉強会の進め方や雰囲気がわかった」「早く勉強会を開催した方が良いと思う」といった意見も寄せられ、それまでの勉強会の参加に懸念していた方々も、車座談議をきっかけにして、参加しても良いと考えて頂けるような機運が出てきたように思います。

10月4日に発行しました中間意見まとめ冊子も使用し、何回か車座談議を重ねてきましたが、その勉強会開催に向けた機運が高まってきたこと、それに加えて、何よりも大きかったのがわれわれとの交渉の窓口になってくださった方が団体内部でご尽力頂いたことにより、ようやく、12月に勉強会の参加者が決まりまして、先日の1月12日に第一回勉強会を開催することができました。

なお、原地区の勉強会ですが、第一回目を2月上旬を予定しており、両地区で順調に勉強会が運営できるように今後努力してまいります

ここからは、1月12日に開催したテーマ2の駅周辺地区第1回勉強会の開催についてご紹介します。

この表は、参加者のメンバー構成です。50音順に並べてございます。メンバーは10団体、25名で構成しております。構成メンバーが所用等で参加できない場合は、予め登録されている代理人に交替する事も可能としています。第1回勉強会では23人が参加されました。

PIプロジェクトでは、様々な論点を議論する事にしており、勉強会でも立場が異なる団体等からの参加をお願いしています。各団体について、ごく簡単に申し上げます。

1番、郷土を愛する会は、原地区の新貨物駅用地の地権者の方をはじめとする、原の郷土を愛する方々です。

2番、NPO法人駿河地域経営支援研究所(SIDAM)様は、地域活性化・産業振興などの向上を目指し県東部の地域経営支援を行っているNPO法人様でございます。代表の方は、アーケード名店街の再開発事業の計画に携わっている方でございます。

3番、チェンジ沼津は、高架事業にご懸念を感じている団体様です。

4番、鉄道高架化を見直す沼津市民の会は、高架事業にご懸念を感じている方々です。

5番、沼津市商店街連盟様は、商店街連盟の会長にご協力して頂き、駅周辺の店主の方の参加をお願いしております。

6番、沼津商工会議所(推薦)は、沼津商工会議所様から紹介していただいた方に、個別に交渉致しまして、参加をお願いしてまいりました。

7番、沼津青年会議所(JC)様は、「明るい豊かな社会」の実現を同じ理想とした次の世代の担い手となる責任感を持った青年の団体です。

8番、東駿河湾まちづくり研究会は、静岡県東部のまちづくりに関心がある方々の団体様です。

9番、富士見町自治会沼津駅周辺総合整備事業対策委員会様は、高架に関連する区画整理事業のうち、富士見町地区の区画整理事業にご懸念を感じている方々でございます。

10番、ふれっしゅ沼津様は、高架事業にご懸念を感じている団体様です。

なお、参加者を構成するに当たり、我々配慮したところは、推進見直しを含めて各団体の公平性を期すため同じ人数にすることを極力配慮し行っております。

これは、会場のレイアウトを模式的に表したものです。会場は、本日よりこの会場でございます。

勉強会の進め方でございますが、ファシリテーターの進行のもと、参加者をA、B、C、3つのグループに分けて実施しております。各グループは、参加者7名～8名、ファシリテーター1名、記録者1名の構成です。また事務局の職員も2名その周りに同席させていただきました。また、代理人席、傍聴人席、報道席を設けました。代理人、傍聴共に、希望をされた方すべて、部屋に入ることができました。

この写真は、Aグループの討議のまとめをファシリテーター(右)の方が発表している様子でございます。なお手前が、左側の前が代理人席、後ろが傍聴人席、右側のななめの席が報道席です。奥が、各グループのテーブルでございます。

これは、勉強会の参加者の皆様にお配りした資料の一部です。意見交換の冒頭で、このようなお願いをしております。

- ①番、前向きな思考で発言しよう
- ②番、話し合いに積極的に参加しよう
- ③番、自分の考えを素直に意見を述べよう
- ④番、他の人の意見に耳を傾けよう
- ⑤番、気持ちよく会議を運営できるよう、協力し合おう

細かくは、下に書いてございますが、意見交換の進行の際は、今述べたことを皆さんご理解していただきまして、また、ファシリテーターの円滑な運営によりまして、非常にスムーズに進んだと事務局としては考えています。

次に勉強会の記録についてでございます。

PI運営事務局といたしましては、会議の記録のため写真撮影、ビデオ撮影、録音を行いました。1点目の写真撮影につきましては、ホームページやニューズレター、PI委員会などで勉強会の実施概要をお知らせする目的のために実施いたしました。なお、掲載にあたっては、肖像権に配慮してまいります。

2点目のビデオ撮影と録音につきましては、P I委員会がP Iプロジェクトを監視・助言・評価するための資料とします。参加者の自由な議論を妨げないため、動画及び音声は一般には公開せず、作業用資料としてのみ使用いたします。

なお、勉強会は、互恵的解決を目指す場であり、参加者には、立場にとらわれない、自由な発言をしていただくため、第三者による会議中の録音、撮影をご遠慮いただいております。

3点目として、ステップごとの勉強会の要旨を公表していきます。勉強会の結果については、勉強会の都度ではなく、ステップごとに結果や要旨を公表の対象とします。なお、各回の勉強会については、要旨とまでいかないレベルですが、開催の概要や写真、グループ検討で出された意見の和集合などについて、ホームページに掲載していきます。

こちらは、第1回勉強会のプログラムです。

内容としては、プログラム2番の、「沼津高架P Iプロジェクトと勉強会の設置について」、事務局から、改めて「P Iプロジェクトの目的・主旨」や「高架事業を含めた駅周辺整備事業の概要」、「勉強会の設置の目的など」について、事務局の方から15分程度説明をしました。ここまでは、事務局が司会進行をしております。

プログラム3番からは、ファシリテーターの井上さんに進行を交替し、議題1の勉強会の進め方について、グループ検討を行いました。

続いて、プログラム4番(議題2)地域づくりの目標についてのグループ検討を行い、それぞれの議題の検討のおわりに、各グループのファシリテーターが、グループごとに、まとめの内容の発表を行いました。

プログラム5番の「今後の予定について」から、また事務局が司会進行を行っております。

こちらは、議題1の勉強会の進め方についての検討内容です。

勉強会に参加するにあたって期待していること、勉強会の目的の進め方についての不明な点・意見・提案、勉強会やP Iプロジェクトに対する意見・質問・提案を出し合っていたいただき、勉強会の進め方について、共有していきました。

こちらは、進行の詳細です。

まずはじめに、ファシリテーターの井上さんから、15分程度勉強会の進め方について、説明があり、その後、各グループのファシリテーターの進行により、ABCグループ毎に進め方の話し合いがありました。

その後、各グループのファシリテーターの方が5分ずつ、計15分各グループの進め方について、グループで出された意見の発表がありました。さらに、ファシリテーターの井上さんから、各グループの補足意見等がないか確認をして、全体の総括をしていただきました。

議論で出た内容は、

- ・目標に立ち返って議論ができる。

- ・鉄道高架の必要性に短絡してしまわないか。
- ・判断が先延ばしされるのではないか。
- ・議論の元になるデータがほしい。

など、でありました。

次にこちらは、議題2の地域づくりの目標についての検討内容です。

先ほど説明いたしました、ステップ2の開始以降、皆さんからいただいた数多くのご意見を、「地域がどのような状態になればよいとお考えなのか」という視点で読み解き、整理した資料を材料として、「地域づくりの目標」として、どのような状態を目指すべきなのかについて、改めて議論していただきました。

こちらが進行の詳細です。こちらもグループ検討75分、発表15分で行いました。議論で出た内容は、

- ・子育て世代や高齢者などの具体的な対象を捉えた目標設定が必要ではないか。
- ・観光資源を活かした交流を促進し、また、観光客だけでなく定住者を増やすことにつながるような魅力が必要ではないか。
- ・物販だけでなく新たな商業を活性化し、沼津の特色づくりをしたい。
- ・地震や津波発生時の避難に不安がある。橋梁の安全性に不安がある。

など、でありました。

こちらは、勉強会の終了後に参加者、代理人、傍聴者からいただいたアンケートの中から、勉強会に対する主なご意見です。

参加者からは、

- 女性の参加者がいない。
- ファシリテーターを固定化しないで欲しい。
- グループ検討の時間が足りない。

傍聴人、報道関係者からは、

- グループ検討の内容が聞こえない。

とのご意見がありました。

また事務局の反省としまして、報道関係者が参加者の肩越しに撮影していた場面がありました。参加者の方からすれば、プレッシャーに感じた可能性もあります。

これらの点につきましては、次回以降、状況の許す範囲内で改善に努め、勉強会を運営していきたいと考えております。

それでは、井上さんから、今回の勉強会のまとめや感想をお話しいただきたいと思えます。すみませんが、よろしく願いいたします。

【ファシリテーター】

それでは、ファシリテーターとして感じたことをお話しさせていただきます。

最初に先ほど目加田委員がおっしゃっていたご意見なのですけれども、私共もこういう

ことをやるにあたっては、当然運営ということを考えますが、一つ一つの参加者の皆さんの発言を掘り下げるといふ言い方をされていますが、その真意がどこにあるのか、具体的にどういふことを言っているのかということをし少し重視しながら進めています。時間の関係や意見の内容によっては必ずしもすべて満たすわけにはいきませんが、今後はそういうことも心がけて進めるようにしていきます。

今回のこの勉強会、沼津駅周辺地区についてでありますけれども、全体的に言いますと、いつまでこういうことをやるのか、とかですね、もう目標の議論は何度もやっているよ、というような意見もありましたけれども、改めていろんな立場の人が参加して、そしてその高架事業などについて考える大きな前提となるじゃあ沼津はどういふ風になつたらいいのかという目標について議論するということについては必要だろうということで共通認識は得られたのではないかと感想は思っています。

幾つか進め方についてご意見もありまして、特に情報提供、資料提供を十分してほしいという意見がありました。これにつきましては、一般的に言われても困りますのでどういふ資料、情報が欲しいのか、それぞれを確認したうえで、資料にあるものは出すようにしております。したがって、第二回の勉強会では、いくつかの資料を提供するという事になると思います。

それからファシリテーターの固定化とかメンバー、グループはずっとこのメンバーでいいのかというご意見がありました。先ほどこちよつとご報告がありましたように、グループ分けですね、同じグループの人は同じところに入らないというのを唯一チェックポイントにして機械的に分けたということではありますけれども、そして、それぞれのグループにファシリテーターがついているのですけれども、少なくともステップ2の段階では、あまりメンバーをころころ変えると前回の議論の続きがわからなくなるから、そこまではこのメンバー、このファシリテーターで行きますということにしています。その先は、みなさんとまたお話しして進めたいということにしています。

一応、ステップ2は、2回程度、全体で7回程度ではという議論はしておりますが、ステップ4くらいの段階から、沼津周辺地区と原地区と合同でやることも検討したいというような説明をしております。

いろいろな意見が出されまして、すでにご報告にあった通りですからあまり繰り返して具体的にこういう意見があったというご説明はしませんけれども、3グループによって若干の進行の程度が異なりました。

議論としては、沼津駅周辺の地域づくりの目標についてより詳細にこういう意見で問題ないかということを確認しながら進めていきましたが、5つの論点、暮らしとか交流とか交通とか分けて議論し、それぞれまだ十分に議論できていないところもいくつかあります。さらに広域レベルの問題とか、PRなどについてはまだ議論がなされておられませんので第二回目でその辺の議論がなされればなと思います。

率直に申しまして、いろいろな立場の人がいるから少々混乱するのかなと不安がありま

したが、皆さんにご協力いただきまして、非常にスムーズに議論としては進んで来たと思っています。

それも沼津を愛する気持ちとか地域づくりの目標というところだと、比較的共通項が多いので、それを今の段階では確認しているところだと思っています。先行き、具体的な選択肢が出たり、方策について議論がされる場合、そのように行くかどうか少し心配です。

それから、原地区についてですけど、第一回の勉強会が2月の中旬に開催する予定になりましたが、今まであまり車座をやっておりませんでした。12月に二度ほど比較的に大きな人数で車座を行いました。やや推進派と反対派と色合いの違いはありましたがそうでない立場の方もそれぞれ参加されていましていろいろな意見が出されました。そもそも貨物駅がどのだけの議論になるかと思いましたが、原地区というのはどういう風に考えなければいけないかという議論が結構出てきましたので、もう一度地域づくりの目標の議論ができるのではないかと期待しておりますけど、今までの経緯もありますし、結構対立も深いということもありますのでとにかく円滑に進められるように最大限に努力していきたいと思います。以上です。

【委員長】

はい。ありがとうございます。それでは、ご質問。さっき質問したことは答えていただきましたけれども。いいですか？グループ分けのこととか。

【事務局】

では、簡単に。当日は、最初からこの方というふう指定しておりました。その理由は、私共も公平が一番頭にありましたので例えば大体3人という選出が、各団体に多かったものですから、3つに各一人ずつ、ABCに分ける、そのABCの割り振りもアイウエオ順に氏名を並べましてですね、「ア」からAグループ、次の方はBグループというような形に割り振りました。やはり同じような方とか、いろいろな構成がありますので、そこは調整させてもらったところがございますが、とにかくすべてこの表の出し方もアイウエオ順に並べております。そういう形で指定させてもらっております。

【委員長】

はい。それでは、どうぞ。

【高井委員】

勉強会の参加メンバーなのですが、各団体に参加依頼をかけたと書いてあるのですが、団体だけに呼び掛けたのでしょうか？個人の方に参加を呼び掛けるってことはなかったのでしょうか？それと各団体で人数が違うのですけれども、これはどうしてこういう人数になっているのでしょうか？

【事務局】

まず参加者の設定方法ということで、4月の第4回のP I委員会の中で一般公募では参加者の偏りが出る可能性があるということから、ステークホルダーグループから推薦を依頼するというご意見をいただき、そのように対応しております。そのため、4月、5月、6月頃は各団体のステークホルダー分析を行った団体の代表者の所に行きまして、まず口頭とか文章もありますけれども、お願いに行く方を最初に出ささせていただきました。その中で参加していただける方、参加していただけない方、ちょっと待ってほしいという方いろいろありまして、その時点では、勉強会のメンバーは揃っていなかったというのが事実です。ただ、その中で車座談議ならいいかな、行ってみようという団体もいらっしゃいましたものですから、そういうところに呼びかけて進めておりました。だから個人ということはしてなくて、例えばNPO法人とか、そういうような名前、役職とか、例えば沼津商工会議所の方は推薦ということで、個人ではあるのですが一応そちらからの推薦があったということでございます。

人数が違うというのは、その所属団体に何人いるのかというのは私たちもつかんでいない部分もあるのですけれども、やはり組織の少ないところ、例えば9番の富士見町自治会様の方は構成の方も少ないとかですね、郷土を愛する会は、原の方なのですけれども本来原地区の勉強会でお願いするグループなのですが、そちらの方からも沼津の高架について言わせていただきたいなというお話がありましたので、基本的には3人、商店街連盟様も実は3人とこちらからお願いしていたのですが、最終的先方から2人とございましたのでそういうような流れで進めております。

【高井委員】

そうするとすべて3人ということで依頼をしているということですか？

【事務局】

結果的に3人になったと言った方がよろしいかと思えます。4名とか2名とか、まずはこのくらいというような言い方としていて、代表の方と話をさせていただいて、整理していったときに最終的にこのくらいになったということでございます。

【委員長】

関連するかもわかりませんが、ステークホルダー分析をして、先ほどの城山先生のご意見と関連しますけれども、幅はある程度押さえてあるということですが、先ほど、参加者、参加していただいている団体の説明をしていただいている時に、微妙な表現をされていましたが、大きく2つのグループのような気がするのですけれども、無関心グループとか、中立グループとか、そういうのは考えない方がいいのですか。あえて、議論のための議論をしているのですが。

【事務局】

例えばですね、駅南に東部パレットというNPO法人にも私はヒアリングをさせていただいているのですが、その時の状況を話していきますと、NPO法人といってもやはり個人ということが多くございまして、なかなか鉄道高架ということが最初に入ると、わたしたちはちょっとというような意見も多くございましたので、やはり無関心というわけではなく、関心はあるのだけど、こういう場ではということはあるかと思えます。

【城山委員】

いくつかご質問とコメントなのですが、一つは、勉強会の目標づくりの進め方についてなんですけれども、中間報告の項目が出ているのが4ページにあって、テーマ1、テーマ2、テーマ3毎に1～6となって今までの課題毎にとりあえず全部整理してみましたというのがベースとしてあって、目標づくりはこれの一番具体的なものをベースに目標として抽象化して、抽出していきましようというような作業をやられているというようなご説明で、現段階は資料5のような形に多分なっているのかなと思うのですが、もしその中間報告であるようなものを目標として抽出していくときにどういう風に整理したらいいのかっていうのが一つ大事なポイントかなと、おそらく今度これを整理したものが今度はいろいろな選択肢を評価する基準に多分つながっていくと思いますので、かなり注意してやった方がいいのかなと思います。その時に資料5の今の目次でいうと、「1. 広域」、「2. 沼津」、「3. 原」、「4. 進め方」といった整理の仕方がなっているのですが、ちょっとコメントというか感想なのですが、何か抽出の仕方がキャッチフレーズ的になっていて、評価基準的なもう少し淡々としたやり方の方がいいのかな。つまり、皆さん個人の意見を見たときに、その抽出のこういうところが評価基準として出てきますよ、あるいはこういうことを考えなければいけませんというものがもう少し並んでいる方がいいのかなと思います。若干標語が並んでいるような形になっていて、何とか生み出そうという感じになっている、これはこれで悪くはないのですが、ちょっと書き方としてももう少し表現を考えられないかなというのが一つですね。

例えば、細かい話はここで議論しても仕方ないと思うのですが、資料5の沼津の所の目次ですね。2枚目の紙の裏側の所ですけれども、暮らしやすい街、人が集う、経済活動、雇用、移動、防災の話、これももう少しこういう定義がいいのかなと若干して、例えば、「2. 多くの人が集う」という交流というのは4の交通とも絡んでくると思いますので、交流と交通というものを分けてしまうのは若干どうかという気もして、交通というのは交流に寄与するもでもあるし、産業や雇用にも寄与してくるものだと思うし、ただ両方に寄与するのはわかりますからということはあるかと思うのですが、このあたりをもう少し考えたいいただいた方がいいかなと思います。

それから例えば、一例でいうと、面白いなと思ったのが、今の定義ですと、「2-3の観光・食のポテンシャルを活かして」に入っているのですが、何人かのご意見があっ

たのですけれども、港の使い方を考えろという話があって、要するに中心市街地には人は入ってこないけれども港に人は来ているでしょう、という時に一つの意見は中心市街地に投資をするというのは本当に意味があるのかっていう意見と、逆に港に来る人を中心市街地にどう入れるのかという意見があって、それはすごく大事だと思うのですね。多くの人が集うためには、地域資源を活かした沼津のまちづくりを考えています、というのが一つのプライテリアで多分そういったことを港の話には示唆されていると思うのですね。それが今のまとめだと「2-3 観光と食のポテンシャルを活かして」なんですけど、こういうまとめ方でも嘘ではないのですが、むしろ地域資源を活かして人をちゃんと集めるってことが考えられていますかとかそういうクライテリアがあった方が実際的に考えていくにはいいのかなというのが一例です。

それからもう一つは、これも一つだけ申し上げると3の原地区で結構大事かなと思ったのが、今だと「1-1のんびりと暮らせる静かな住環境を」としてまとめられているのですが、合併のメリットを明確にしてほしいというのがあって、多分これは沼津の市街地と原地区との関係を今後どうしていくかってことで、たまたま合併をしてそのメリットをどういう風に考えるか、お互いどういう交流関係を作っていくのかというのが課題として重要で、それをのんびりと暮らせる静かな住環境とやってしまうとちょっとそこは清廉化しない方がいいかもしれませんが、むしろどういうことを考えなければいけないかという、原地区と沼津との関係、新しいあり方を考えていますかみたいなことが一つの重要なプライテリアになってくるのだと思うのですね。

また私は事情を存じ上げないのでいい加減かもしれないのですが、「3-3「農」にかかわる地域の文脈を活かして」とありますが、ここで書かれているのは、例えば農業を媒介にして地域間交流、世代間交流を考えられないかという、これは一般に都市農村交流というのがよくありますが、例えば教育で沼津市内の小学生が原地区に行くとか、そういうようなしなかけが、地域としてのアイデンティティーを共通化して持つために重要なことなので、そういうところともつながっていくような気がします。この辺は例示的な思いつきなので、どういう個別の発言があるかというのをまとめていくときに、もう少し評価すべき基準が明確になるような形でまとめていただいた方がいいかなと思います。

最後に若干レベルの違う話なのですが、「1. 広域レベル」の目標のまとめ方というと、先ほど申し上げたのですが、何もせずに過ごすのは問題とか、時間の問題だとか、税金を効果的に使ってほしいっていうのは、これは結構大事な論点で、結構意見も出ています。

ただ、地域目標とは違うレベルなのかなと。一つは、時間管理をきちんとやってくれとか、時間をちゃんと考えてくれという話と、もう一つは優先順位で、地域の目標にもいろいろなものがあるので、もちろん全部両立できればそれにこしたことはないのですが、財政制約があるときに一体どれが優先なのかを考えてこの投資が優先案件なのですかということをちゃんと説明してほしいということなので、個々の地域目標というか、いいアイデアかはわかりませんが、「4. 進め方に関する課題の整理」のところでもP Iの話が結構まと

まっているのですけれども、実はスピードの問題、時間の管理の問題、効果っていうのはむしろ「4」の中にまとめていただいてもいいのではないかというのが印象です。

【委員長】

はい、ありがとうございます。非常に重要な指摘だと思います。整理だけするのではなくて、これからP Iプロセスをどう活用していくか精査をしてくださいというような意見でございます。非常に重要なポイントだと思います。他にいかがですか。

【寺部委員】

勉強会についてなんですが、勉強会が開けて本当によかったなと思います。前回の9月の時に、まだ開けないという話を伺ってこのまま車座談議だけで進んでしまうのではないかなと僕自身覚悟していたところもあったのですが、本当に開けて良かったなと思います。事務局の努力ももちろんですが、関わっておられるいろいろな団体の方が耳を傾けてくれたことが大事なポイントではないかなと思います。

ようやく始動したので、勉強会を車座談議と違ってより突っ込んだ意見を比較的継続的に議論していくという大事な場だと思うのですけれども、先ほどの話で団体以外の人をどうするのかということは考えておかなければならなくて、井上さんがおっしゃったようにあまりメンバーが変わると議論の継続性が保たれないとおっしゃっていてそれはその通りだなと思いますが、途中からどんな人でもウェルカムですよっていうのはちょっと違うかなと思うのですが、一方でステップ2がそろそろ終わりですよとか、大体地域づくりの目標はこんなもんですよとなった時に私の知らないところで進んでいた、あるいは参加されていない団体の方もいらっしゃるということですから、我々の団体の知らないところで進んでいた、じゃあいかななものかというものが出てくるのが怖いので、それを防ぐには、時々、説明に行くのが大事かなと思います。最初の頃にいろいろな団体にお話を伺ったと思うのですけれども、その時に今回の勉強会はいいですよと遠慮された方にも、今こんな状況ですよというお話しをしに行って、場合によってはステップ3から入っていただくとか、ある区切りがついたところで合流していただいて、知らないうちにどんどん進んでいた、だから俺たちは知らないという風に言われないようにする努力もどこかでやった方がいいのではないかと思います。

【委員長】

いかがですか？今のご意見は。

【事務局】

ご指摘の通りだと思います。当然ニューズレター等はステップの変わり目とかで出していきますけれども、なかなか全員に見えていただけるかという疑問があります。今も時々説

明しているのですが、勉強会がどうこうということではなく、P Iの説明に私共も結構コツコツ回っているのですが、やはりですね、勉強会だけで終わるのではなく、先ほど委員長も言われたように車座談議を開いていかないと何をやっているのかというのがわからないので、車座談議は当然今までやってきた団体には声をかけていくと、それ以外にも例えばステップが変わっていけば、ちょっと聞きたいという団体もあろうかと思しますので、そういうところでは、また、最初のところは少し端折りながら、今こういう形で行っておろご意見どうですかというような形でやっていくしかないのかなと、それが一番今までの経験の中で、参加者も増えるし、理解していただける近道だと思っております。

【目加田委員】

先ほどのご質問に関連してなんですけれども、課題というところで、女性の参加がないということで、それで、世代についてはどうなのかなと。ご意見の中は、オープンハウスも圧倒的に高齢の男性の方が多かったということですが、勉強会では、若い世代、青年会議所も入っているので30代の方も参加されているのかもしれないのですが、若い意見、あるいは女性の意見をどう反映させていくのかということについてどのようにお考えなのか。

【事務局】

若い意見につきましては、今の勉強会の参加者の構成の中では、青年会議所（JC）様がいらっしゃいますので、30歳代、40歳代の方が25名中約9名入っていらっしゃいます。60歳代、それ以上の方も多いのですけれども、それなりに我々としましては、20歳代がないというのはちょっと気になる場所がありますけど、今後も青年会議所にもお願いしたいなというところはあります。

女性につきましては、実は商工会議所の推薦の中にも女性の方はいらっしゃいますので、他の団体の中で代理人として女性を登録している場合もありますので、今回はたまたま出席がなかったとのことなので、それはそういう方にも声をかけていきたいと思っております。また改めて先ほど言われたように、追加の団体の声掛けについては、全く排除するものではないと思っておりますので、また考慮していきたいと思っております。

ただ、今までの流れの中で、土曜日の午後とか、そういう時間帯での開催をしながら、それが一番集まりやすい時間帯かなと聞いておりますので、意外とその時間帯は女性の方は忙しいというの聞いておりますので、そこは配慮していきたいと思っております。

【委員長】

はい、いかがでしょうか？どうぞ。

【松浦委員】

意見のまとめの冊子を作られているのですが、そろそろまとめに入らなきゃいけないと思うのですが、それに対して一般にこれでいいですかみたいな確認の作業を行うのか、それとも県が独自の判断で、ここでやめますという形でやられるのかということなのですが、実は私自身がこういうのをまとめる時に、例えば、実際に意見を聞いた人に対してこの案を送って、あなたの言ったことは入っていますかということで、1週間くらいですかね、縦覧して意見を求めるようなことをステークホルダーの意見をまとめるときにはやります。実際そういうことをした方が、実は最近、自分自身がやった仕事でそういう経験があって、意外な人からそこが不満ですって言われて、一番文句を言ってきそうな人からは全く言ってこなくて、絶対言わないだろうっていう人から返ってきたりすることが実際に多いです。そういう人に限って集まった場ではなかなか意見を言いづらいような、まあ性格もあるでしょうし、立場もあると思うのですが、そういう方に一回送って、あなたの言ったことは入っていますか？と言うと、実は入っているのですが、不満があるせいかやっぱり、実は私はまだ気になるところがあるのですが、というようなことが返ってきます。そこでアテンドしておく、後々その人も不満も抱えることなく進めることができますので、冊子の確認というのはできれば時間も厳しいでしょうがやっていただいた方がいいと思います。

【委員長】

はい、ありがとうございます。先ほど城山委員から整理の仕方を工夫して、次にもつながると、そうすると結構先を見通した、単に整備ということよりはいろいろ考えや、方向性が入ったものになろうかと思いますのでそういう意味でも大切なご指摘だとは思っています。

松浦委員に私からもご質問なのですが、結構たくさんの方から意見をいただいているわけですね。それはどうすればいいんですか。例えばこういうのをまとめようと思いますと、ホームページにアップしてありますからアドレス等がわかっている方には、それを報告するくらいでいいのか、あるいは一人一人お訪ねしてというくらいまでやらないといけないのかというそれはいかがですか？

【松浦委員】

人数が少なければ一人一人でもいいかもしれないのですが、これは多分無理な話なので、住所が分かっている人だけにこれは素案として作りましたと、ご意見のある人は添付のはがきでお送りくださいとかですね、という形になると思います。

【委員長】

ありがとうございます。時間の管理が悪くて時間がなくなっているのですが、勉強会の広がりとかメンバーということで、ステップ2の間は今のメンバーでやりたいと、それ

はそうだと思うのですが、さっきお話伺っているとやっぱりコンタクトしたけれどよくわからなかったから今はちょっとという風にも私は受取れたのですね。こういういろいろな活動をしていただいて、P Iとか話し合いとかがどういうものかというのがわかってきつつあるように思いますので、そういう和をさらに広げていく努力ってすごく重要だと思います。そのために、これからの車座もいろんなところへの押しかけも含めてですね、やっていただくとかですね、勉強会のメンバーも柔軟に考えると、大きなP Iの枠といいますか、アクティビティーを一段とレベルアップするようなことが必要になってきているのだらうと思います。

事務局は大変かもわかりませんがやっぱりそうした方がこれだけ大きな問題であり、いろんな方がいろんなご意見をお持ちだということが本当に明らかになってきていますので、そこからやっぱりいいものを導き出すには、そういう努力を今よりも増してやっていただければなという風に思っております。そういうことも含めて、次に今後の進め方についてご説明していただいて、また後で全体を通して議論していただきたいと思います。それではお願いします。

5) 今後の進め方

【事務局】

それでは、資料8、今後の進め方でございます。一枚だけの裏表の紙でございます。今後、委員会で私どもが次のステップに進むに際しましては、ステップ2についてご評価をいただくことになっております。そこで、まず「ステップ2におけるP I委員会の評価の視点」について、現時点における自己評価をしてみました。ちょっとパワーポイントが小さくて見にくくて、資料も小さくて見にくいのですがお手元の資料をご覧ください。お手元の資料及び前面のスライドでは、左側の上段の太くなっている文字が実施計画といえますか、当委員会でお話しした時の評価の視点、下段のカッコ書きの部分がステップ2での評価の視点でございます、右側にそれぞれの評価の視点に対する自己評価を記載してございます。この評価の視点については委員会でお話ししましたものでございます。

まず、1項目目の「多様な利害や関心を把握し、それらに対立構造になっていないように取りまとめられているか」でございますが、私どもといたしましては、意見集や広報紙発行にあたり、寄せられた意見を賛否などの対立的意見としてではなく、市民のニーズとして整理し、対立構造にならないよう整理ができたのではないかと考えております。

2項目目の「ステップ2の検討段階であることが明示され、それが理解されるための努力がなされているか」でいう点につきましては、広報紙でも毎回掲示しておりますし、オープンハウス、車座談議等においては常にステップ2の段階であるということを明確にしながら活動しております。

3項目目の「ステップ2での検討趣旨が明示され、それが理解されるための努力がなされているか」についてでございますが、意見まとめ冊子や広報紙では常にステップ2に関

するニーズを中心に整理しておりますし、車座談議や勉強会では、議論が方法論に傾きがちですが、ファシリテーターの進行のもと、「目標の設定」に集中して議論ができているのではないかと考えております。

4項目目の「単なる立場や要望などでなく、その理由としているニーズが踏まえられているか」でございますが、賛否や要望などに意見については、先ほど説明いたしましたとおり、その理由となっているニーズを読み解き、目標として整理したものをベースに議論を実施しております。

5項目目の「どのようなステークホルダーが存在し、それらに対する多層多層のコミュニケーションが行われているか」でございますが、広報紙を市内全戸配布するなど情報提供と意見募集に努めておりますし、オープンハウスも数多く実施し、市民の皆さんの生の声を直接伺うようにしております。また、多くの関係団体を対象に車座談議を実施し、先日は勉強会も開催することができました。そのほか、事業者ヒアリングも実施し、多重多層のコミュニケーションに努めております。

6項目目の「情報提供のため努力が十分になされているか、意見の把握では論点を把握する努力がなされているか、適切な情報が提供されたか」という点でございますが、情報提供につきましては、広報紙やホームページ、またフェイスブックの活用やP I委員会のインターネット中継、勉強会の公開、車座談議も可能な団体におきましては公開にて実施しております。意見の把握におきましても、利害関心を読み解き整理しております。

また、ステップ2目標設定にあたって必要となる情報につきましては、適切な情報の提供に努めておりますが、市民の皆さまからは、今後の議論のために必要な資料の提供や詳細な説明をしてほしいという声も聞こえております。この点につきましては、今後も、各ステップを進める中で、必要な情報提供を適切にしていまいりたいと考えております。

7項目目の「P I委員会の助言に対して、適切な対応がなされているか」についてでございますが、オープンハウスの服装ですとか、車座談議等の記録方法、事業者ヒアリングの対象など委員の皆様のご助言を踏まえ対応しております。

最後、8項目目の「勉強会の運営において、意図的な議論の打ち切りや、遅延行為はなかったかなど、適切な議論や時間管理がなされているか」ということでございますが、勉強会はまだ1度開催しただけですので、今後の開催に当たっては念頭におかなければならないことだと考えております。第一回の勉強会は、3時間という長い時間とはいえ限られた時間の中での意図的な意見の打ち切りや遅延行為などはなかったと考えております。ステップ2の議論が当初の想定より大幅に遅延している状況にありますので、勉強会や今後の効率をできるだけスピードアップしてまいりたいと考えております。

次のスライドが今後のスケジュールについてでございます。

先ほどまでの説明のおさらいになってしまいますが、私ども、前回P I委員会以降、車座談議につきましては、沼津駅周辺地区においてはこのように実施、開催してきており、原地区につきましても12月11日、15日にそれぞれ意見の異なる関係団体との開催がで

きております。

オープンハウス等につきましてもごらんの通り実施し、これらで寄せられた意見は「意見まとめ」として中間報告をしまいいりました。また、寄せられた意見をもとに、先ほど説明いたしましたとおり、地域のニーズや課題を整理し、具体的な議論のたたき台として地域づくりの目標に関する整理をしまいいったところがございます。現在は、その整理をもとに、広報紙による問いかけ、オープンハウスでの問いかけ、また、1月12日には勉強会での議論を実施して、本日のP I 委員会を迎えております。

今後でございますが、ご報告しましたとおり、沼津駅周辺地区における勉強会をようやく立ち上げることができたところがございます。

私どもといたしましては、これまでの活動を通じ、市民や関係者の皆様に少しずつではございますが、P I というものが馴染んできたというか、御理解していただけたのではないかと感じているところがございます。そのため、今は勉強会での議論や意見交換を重ねることを最重要課題としまいいりたいと考えております。

このため、ステップ2のとりまとめにつきましましては、勉強会の議論が熟し、勉強会メンバー間で「地域の目標」について共通認識が得られたところでとりまとめてしまいいりたいと考えております。ステップ2をとりまとめて、次の委員会を迎え、委員の皆様には「ステップ2の終了」及び「ステップ3の開始」の判断をしていただきたいと思いますと考えております。また実施計画で平成24年度中としていた全体スケジュールでございますが、ステップ2の遅れに伴い延伸させていただき、実施計画の内容につきましましては最後までやりとおしたいと考えております。

一方で「参考資料5」に最後につけました静岡新聞の記事をお配りしておりますが、「P I 停滞」といった報道もございませうので、時間管理の概念につきましても念頭に置きながら、地域の皆さんとのコミュニケーションを重視して取り組んでしまいいりたいと思っております。以上でございます。

【委員長】

はい、ありがとうございました。これまでのステップ2に関しての自己点検評価と、これからのスケジュールについての考え方についてお聞かせいただきました。ご質問とかご意見お願ひしたいと思ひます。

【松浦委員】

報道が他にもあると思ひますのですけれども、基本的に今年度中に推奨案を提示というのが最初のスタンスで動いていたのですがこれを延期するという方向で、それはなくはないと思ひますが、その延期することについて委員会としてまず了承するかしないか判断した上でないと議論できないのではないかなと、それで了承した上で、ではどうするかという議論ができると思ひますのですけれども。

【委員長】

どうですか？ダメだって言ったらどうするのですか？

【松浦委員】

いや、我々がこれでできますと最初に言ってしまった都合上、できないのであれば、すみません延期しますことを宣言する必要があるのでは。

【委員長】

一度けりをつけるというか反省すべきところは反省したほうがいいと・・・。

【松浦委員】

そう言わないとこういう報告が続くと思うのですよね。年度末じゃないですかと。

【委員長】

それは、9月の時にも私の方から諸般の事情もございまして、やっぱり大事なことは大事なので拙速というのは避けるべきであることを、最後に発言させていただいたと思うのですが、それと状況が変わっていないというのが私の判断でございまして、もしお許しいただけるのであれば、今日後でまた総括的な議論をしていただければと思いますけれども本当にいろいろなことをやっていただいた上での遅延ですので、しかも先ほどこれからも時間管理に気をつけて一生懸命やりますという決意表明をいただいたわけですので、今年度中に全部やるということをしていましたけれどもそれは固執するのはあまり賢明ではないのかなという判断を示したいと思っておるのですが、それで皆様方よろしいですか？

【出席者】

はい。

【委員長】

はい、そういうことでさせていただきます。お待たせしました。どうぞ。

【高井委員】

PIプロジェクトのニュースの第5号の、一番右の下の所に今月から勉強会が始まりますと書いてあるのですけれども、もうちょっと沼津駅周辺地区と原地区とで勉強会があって、大体、月に一回土曜日の午後で開催するとか、どこで開催するとか、傍聴でも参加でもいいので広く勉強会に参加される、傍聴でもいいので皆さんおいでくださいとかいうのをもう少し書いた方がいいのではないのでしょうか？

【事務局】

はい。できる限り情報としては出していきたいと思います。

【委員長】

次回からお願いします。

【城山委員】

自己評価で書いていただいているところなのですが、5項目目の「市民関係と多重多層なコミュニケーションを行っているか」というところ、努めているというところ、いいと思うのですが、多分今日出てきた話は、女性とか若者だとか、あるいはもうちょっと今まで来ていないような人を開拓していくようにしますと、努めているということならいいのですが、そこをどうやるかというのが今後しばらくの間一つの重要なポイントだと思うので、その表現が最終的にどうなるかというのがそれ次第ということかなと思います。

もう一つこれは我々が了承しちゃっているものなので、自分で言うのも変なのかもしれませんが、読んだところのステップ2での評価の視点で「目標や代替案、評価項目を設定しているか」というのは、若干行き過ぎているのかなと、今は、目標を設定するまでの話なので、目標の話をちゃんとニーズベースで設定しているかというところが実質の評価基準ということかなと思いますので、一応そういう理解でよろしくお願い致します。

【事務局】

太い字の部分はPI全体の評価の視点ということで、その下の部分のかつこ書きの所は、今回目標なものですから目標についてはというこの部分が今回の評価になります。

【委員長】

はい。何か他にありますか？

【寺部委員】

同じく評価の視点の5番の多重多層の所なのですが、若者でも、10代20代の若者と30代から50代の若者と2種類がいると思うのですが、特に両方に違うアプローチが必要だと思うので、その辺をもう少しコミュニケーションをする努力をした方がいいかなと思います。特に、ニューズレターの6号が出るあたりで、多分ステップ2から3に切り替わるあたりだと思うのですが、この辺を一つのチャンスととらえて、もう少し違うコミュニケーションの仕方したらどうかと思います。例えば、県外に出ている10代、20代の子で学生さんとか若い仕事している人たちで、将来沼津に帰らなきゃなと思っている人たちもいると思うのです。先日、沼津市の新成人の議会があったとい

う新聞を見まして、そのようなときなどで地元に戻ってきたときに、結構、彼らなりに地元のことを思っているものですから、ああいう人たちをただ、彼らとコミュニケーションとれるチャンスが年に3回しかないのですね、お正月と春休みと夏休みしかないのです。そういうところをうまく使って、例えば若者の10代20代の人たちに、今こんな風に進んでいるよということの説明でもいいから、うまくタイミングを使ってやった方がいいのではないかと思います。

30代から50代くらいの人たちは、どちらかというとオープンハウスとか車座談議とか、あるいは会社とか、企業を通じて周知とか、それは継続的にどこかのタイミングでやっていけばいいと思うのですけれども、評価の所の5番のところをもう少しで約1年経ちますけれども、もう一回頑張っていたいただきたいなと思います。

【目加田委員】

今の点に関連してなんですけれども、勉強会で出たご意見の中で観光客だけではなくて、定住者を増やすことにつながるような努力というご意見があったと思うのですけれども、若者と言ってももちろん県外の20代の若者もそうなのですけれども例えば市内の中・高生に何かしてもらおうとか理解してもらおうような機会を作るとか、学校に出かけて行って、出張車座談議みたいなことを行ったり、若いお父さんに研修をすとか、あるいは、なかなか表に出てこない障害を持っておられるような方たちが街に出たときにその方のためのバリアフリーのまちづくりや、あるいはまちの動線を考えるときという視点からどういったようなご意見をお持ちなのかという等についてもできるだけきめ細かく集約できるように是非ご検討いただきたいと思います。

【事務局】

いただいたご意見を元にやらせていただきますが、これまでにいただきました意見につきましても、年齢層は推測というか全ての方に年齢を聞いているわけではございませんので、こういう人にこれくらいの人数を聞いているので、例えばこのあたりが薄いのかなというのちょっと調べまして、足りない部分を補っていく努力を続けたいと思います。ありがとうございました。

【委員長】

はい、他に何かもし意見がなければ、時刻を超過しておりますので終わりにしたいと思うのですけれども、まず、ステップの進捗状況の自己評価に関しては、もうちょっとと思われる部分について努力をしていただきたいというご指摘をいただきました。

スケジュールに関しても、先ほど井上さんの方からステップ2の目標設定については、2回くらいでできそうという観察というか推測をいただきましたので、それを絡み合わせると、ステップ2の終了もそれ程遠くないのかなと思いますのでいろいろな人にいろいろ

な努力をしていただいた成果が出ているのではないかと思います。

それと、ご紹介をいただいた新聞記事に「P I 停滞」と書いてあって、形の上では本当にそうでございます。そうだと思います。松浦委員がおっしゃったように、我々としてどう受け止めるのかというある種の我々としての見通しの甘さもあったわけですから、それはきちんと反省して、これからの加速につなげていくということにしたいと思います。

でもですね、表面上実績としては停滞なのですが、今日のご報告でよかったなと思ったのがいろいろなところでP I というものがお分かりいただき始めたのかな、それでギアが噛み合って、ゆっくりではあるけれど動き始めたので何事も動き始める時が一番大事でございますので、あとは、加速っていうのは今の調子でいうとなかなか期待できるのではないかなと思うので、本当にいろいろな方に感謝申し上げ、あるいは努力と工夫を評価申し上げ、最後にしたいと思います。以上で、議論については終わりにさせていただいて、マイクを事務局にお返しいたします。

【事務局】

委員の皆様長時間ご議論いただきましてありがとうございました。次回の会議日程につきましては、事務局にて日程調整の上、改めてご連絡させていただきます。それでは以上をもちまして会議を終了致します。ありがとうございました。

以上